



東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科

関高の超難関大入試対策 ～ 夢を志望に、志望を現実に～

東京大、京都大、一橋大、東京工業大。そして医学部医学科。

関高では、国立超難関大をめざす生徒を積極的に支援します。

個別指導 補習や土曜講座以外にも、生徒一人ひとりの志望校や学力に合わせた個別指導を行っています(右写真上は教員による指導、右写真中は大学生支援員による指導)。

東大・京大入試問題研究会 毎年7月に開かれる東大・京大入試問題研究会では、関高の教員が京大講座の英数国三教科を担当しています(右写真下は京大英語講座の様子)。

現役東大生オンライン講座 ベネッセコーポレーション及び鉄緑会(東大専門の学習塾)と提携したオンライン講座を、1・2年生対象に実施しています。

難関大模試 1年次より難関大希望者は駿台実戦模試などのハイレベル模試を校内で受験します。

未来を拓くキャリア教育 ～未来創造～

関高の進路指導は受験テクニックの伝授にとどまりません。

大学進学後の研究活動や将来の職業、生き方についても生徒に寄り添い、ともに考え抜きます。視野を広げ、考えを深めるためのキャリア教育も充実しています。

<夏の京大講座を受講した本校生徒の感想>

・今の自分と目標との距離を測ることができた気がした。はじめて京大の過去問を解いてみて、遠く険しい道のり、大きな壁を感じるとともに、今までよりも近くも感じられ、モチベーションがあがった。基礎の重要性を再認識するとともに、その先の見通しが見えてきた。

・実際に過去問を解いたことで、本番の問題の厳しさやこれからどう対策していけばよいのかということが今まで以上にわかりました。とても長く、面白く、飽きることのない授業でした。



超難関大・合格体験記

東京大学 文科三類

三宅彩香

(桜ヶ丘中出身)

合格発表で自分の番号を見つけた時、今まで頑張ってきて良かったと心から思いました。高校生活は辛いことも楽しいこともたくさんあり、その分今は達成感でいっぱいです。参考になるかわかりませんが、私が受験を通して思った事を書いていきたいと思います。

まず大事なことは、自分が本当に行きたいと思える第一志望校を見つけることです。その際、自分の行けそうなところより少し高めに目標を設定すると良いと思います。私は大好きな古典の研究を大学でも続けたいと思っていたので、研究設備の整っている東京大学を思い切って第一志望にしました。志望校を決めるときは、自分が将来どんなことをしたいか、何を目標にしたいかを考え、その目標を達成するために一番適した大学を選んでください。その際、大学の資料を取り寄せたりオープンキャンパスに行ったりするのがおすすめです。まだ志望校が決まっていない人は、自分で調べて早めに決めると良いと思います。

目標が決まって勉強をするなかで一番大切なのは、続けることです。ひとつの参考書や問題集を最後までやり切り、何度も繰り返してください。いろいろな参考書に手を出すと、かえって内容がしっかり定着しません。どうしても他人の使っている参考書などは欲しくなりますが、我慢して自分を信じてください。また、志望校を決めたらできるだけ最後まで貫き、基礎的な学習と並行してその志望校の傾向に沿った対策を継続することが重要です。

そして、受験は最終的に体力と精神力勝負です。誰でもスランプに陥ることはあるし、自分の実力が信じられなくなることがあると思います。私も、2次試験直前に自分の力が伸びている気がしなくて辛い時期がありました。でも、不安を解消するにはひたすら勉強して自信を持てるようになるしかありません。辛いのは周りのみんなも一緒です。そこで諦めずに頑張りが続ければ、合格が近づくとおもいます。

最後に、私は家族や友達の支えなしでは合格することは出来なかったと思います。また、忙しいなか添削指導をして下さった先生方にも本当に感謝しています。皆さんも後悔のないように、志望校合格を目指して頑張ってください。

「3年生になったらみんな必死に勉強するから、結局、1、2年生のうちにどれだけ勉強したかで差がつくぞ。」・・・これは、1年生の時の担任の先生がおっしゃった言葉です。この言葉は、正しかったのでしょうか？

とりあえず僕はそれに従い、1年生の時からコツコツ勉強しました。小テストや定期考査、模試に向けての勉強をしっかりとやりました。そして3年生になって、志望校も定め、応用的な問題にも取り組むようになりました。今思い返すと、1、2年生で基礎を固めていたからこそ、3年生で発展的な問題も理解できるようになったのだと確信しています。

「1、2年生でどれだけやったかで差がつく」という言葉は、「どれだけ土台を固めることができたかで、3年生での学力の伸びが変わる」という意味で、正しかったと思います。

その他、重要だと思ったことを挙げます。

○志望大学は、よく調べ、実際に見て決める

高2の夏、オープンキャンパスや、高校主催の「難関大見学ツアー」に参加しました。そこで学風に強く惹かれたことや、自分の学びたいことを学べること、また、受験科目や配点が自分に有利だと思ったことなどの理由から、京大を志望校に決めました。大学をよく調べておくことは、必須です。1、2年でコツコツ勉強しておけば、大学選択の幅も広がります。科目を安易に捨てないでください。特に文系の数学。

○模試の判定を気にしすぎない

夏の模試の判定は、河合塾：D、代ゼミ：CとB、駿台：Aで、バラバラでした。一喜一憂する必要はありません。もちろん、苦手分野を理解するなど、模試から得られるものはどんどん吸収しましょう。秋には河合塾からもA判定をもらえましたが、夏以降どれだけ伸びるかは、やはり土台がどれだけしっかりしているかどうかです。

○夜更かししない

夜12時には布団に入っていました。だらだらやるより、時間を決めてやったほうが良いと思います。最低限必要な勉強をコツコツやってきたのなら、直前期に焦って夜更かしをするということもありません。

もちろん、3年生もまだ遅くはありません。夏までに土台を固めれば、秋以降伸びます。友人・家族・先生方に感謝することを忘れることなく、勉強や部活などに精いっぱい取り組めば、合格は、すぐそこです！

僕にとって、3年生の1年間はとても楽しかったし、記憶に深く残るものでした。一般的には早く過ぎ去ってほしいはずの受験生としての生活をどのように楽しんだのか、ここに記そうと思います。

まず、僕は理科が大好きです。暇つぶしに物理の公式を証明してみたり、化学反応式について詳しく調べてみたりしていました。逆に国語や地歴は大の苦手科目でした。そんな僕が志望した東工大は、センター試験を合否の判定には使わず、英数物化の4科目から成る個別試験の結果のみで決まる、という珍しい大学です。東工大を志望すれば英語と理系科目だけ極めればいい！と2年の冬に東工大を志望することを決めました。

そして、3年生になると、2年までと比べてより本格的に勉強するようになりました。また、夏休み前ごろには、有志で参加することになっていた化学グランプリと数学甲子園の過去問を仲間たちとともに解くこともあり、仲間との友情を深めることができ、共通の目標を目指して頑張る素晴らしさを感じました。

夏休みには、僕は文化祭の劇で主役を務めることになったので、その練習に行く日が多くありました。推薦されて渋々承認したものでしたが、練習を重ねるにつれてなんだか楽しくなってきた、これまで交流のなかった人と新たな友情が芽生え、やってよかったなと感じました。

関高祭が終わると、クラスの雰囲気は少しずつ受験ムードに変わってきて焦りを感じるようになり、必死で勉強するようになりました。11月ごろから個別試験対策の記述模試はないので、自分の実力もわからず、不安でしたが、大好きな理系科目ばかり勉強できることは楽しかったので、勉強が嫌になることは全くありませんでした。

そして迎えた受験本番。やはりこの日もとても不安で、最初の科目で、そして最も配点の大きい数学で全然力を発揮できず、もう終わったなと思いました。1日目が終わった後、ホテルで孤独だったこともあり、かなり沈んだ気分でした。しかし、SNSで多くの友達が励ましてくれ、何とか気持ちを立て直すことができました。これまで鼻で笑ってきた「受験は団体戦」という言葉はこういうことなんだなぁと最後の最後で実感しました。

こんな1年間を経て僕は東工大第5類に合格しました。化学グランプリ、数学甲子園、文化祭はそれぞれかけがえのない思い出です。また、勉強についても、理系科目はとことん追求し、学校や塾の先生にと何度も質問しました。また、化学グランプリでの仲間と化学の話をしたり、数学甲子園での仲間と難しい数学の問題の議論をしたりしたことは僕を大きく成長させてくれました。

後輩のみなさん、一人で机に向かって勉強することも大事ですが、息抜きと行って行事等に積極的に参加することはストレスのたまりやすい受験生にとって重要なことだと思います。化学グランプリのような、学問の大会や、学校行事に積極的に参加し、たくさんの思い出を作り、新たな多くの仲間を見つけ、充実した受験生生活を送ってください。

京都大学 農学部
坂井 達也
(双葉中学出身)

よく言われていることですが、自分が受験をすることで改めて大切だと思ったことを書きます。

1つ目は、自分の勉強方法を作ることです。先生や友達が言うような勉強方法はもちろん正しいですが、それが100%自分に合うことはまずありません。言われたことを鵜呑みにして全てを真似るのではなく、言われたことの中から自分が本当に使えると思った部分だけを自分の勉強方法に取り入れるのが大切です。

2つ目は、早めに志望校の問題を見ておくということです。個人的には三年の4、5月には確認しておいたほうが良いと思います。どの程度のレベルの問題が出るのかを把握し、今の自分の力量と比較して今後の勉強に役立てることが大切です。特に英語は、一年分丸々解いてみて良いと思います。数学等は、習った範囲のものを解くが良いと思います。そしてできれば、各大学の個別模試を受けることをお勧めします。自分の力量がより細かく分かり、今後の勉強のやる気が出るからです。

3つ目は、受験は団体戦ということです。みんなが知っているように受験勉強は辛いです。かなりしんどいです。その辛さをみんなで協力して乗り越えてほしいと思います。僕自身も友達にかなり助けられました。友達と一緒に勉強してくれたから最後まで受験勉強を頑張ることができたんだと思います。

ここに書いたことは、どれもありきたりなものですが、少しでも皆さんの受験勉強に役立てば幸いです。

京都大学 総合人間学部

加藤 悠花

(美濃中学出身)

もともと音楽大学を志望していた私は1, 2年生の時、帰ったら音楽の勉強を2, 3時間、週に1回岐阜へ通っていました。また、1年生の後期に生徒会に入り、2, 3年生まで続け、生徒会長をやりました。3年生の9月までは関高祭に向け、時には9時までやり、バンドで楽器店に通い、クラス発表の演劇で全員の衣装を調達しました。

さて、私が京大を目指し始めたときは当然、こんなことしてられないと思いました。でも、一生に一度の高校生活を悔いなく楽しみたいという思いは消えず、だとしたら、これだけの活動をしていても、京大合格は可能だと証明しよう！と思い、最後まで何もかもやり切りました。そして合格することができ、証明することができました。私が今一番伝えたいのは、部活や生徒会をやっている人こそ、合格する可能性を秘めているということです。勉強以外の活動を受験勉強の妨げではないと、胸を張って言えます。むしろ、高校時代に勉強中心の思い出しかないというのは寂しいですね。また、合格とともに自分の勉強法は正しかったと自信を持ってました。2つ紹介します。

① 学校を頼ること

塾とは無縁な生活をしており、1, 2年生の時は放課後の勉強時間も危うかったため、学校の授業、そして休み時間を活用しました。私が1番大切だと思うのは「わからないところをそのままにしておかない」ことです。「なんとなく」理解していることは、本番の緊張した状態では使えません。私は「わかった」と言えるまで、授業後や、掃除のあとに、時には1, 2時間、先生（特に3年間矢嶋先生）を質問攻めにしました。入試では、その時に教えてもらったことを、いくつも生かすことができました。教材はもちろん学校のものを使っていました。「成績が伸びない」と嘆く前に、ターゲット、ネクステを、どこにどの単語があるか自然と思いつくくらいやりこんでください。毎日パラパラ、漫画のように見るだけでも、ずいぶん効果はあります！！

② 本番に強くなること

どれだけの知識を持っていても、発揮できなければ意味がありません。普段100%の知識を持つAさんが本番に70%の知識をだし、普段80%の知識をもつBさんが本番に80%の知識をだせば、Aさんは不合格、Bさんは合格となります。本番に強くなるには、部活の試合、コンクール、生徒会演説、文化祭主役をやるなど、勉強以外の活動が大いに役立ちます。今までそういう経験をしてきた人は、一歩リードしているでしょう。私は本番ほとんど緊張しませんでした。

失敗談としては、受験の形式がわからなかったこと、10月以降に勉強をいきなり頑張りすぎてストレスの病気になったこと、2次試験の前日に37度5分の熱をだしたことが挙げられます。体調管理が大切だということは言うまでもありませんが、何が起こるか本当にわからないので、あとからいきなり勉強をやりだすということは無理だと思っておいた方がいいです。日々の、授業や、テストに向けて勉強するという習慣を大切にしてください。

「夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ」という言葉がある。自分には無理なのではないか？無様に失敗するだけなのではないか？こういった心の声に耳を貸さず、一步一步確実に歩んできたものだけが夢を手にするのだ。受験勉強を終えて、僕は今、改めてこの事を実感している。

無論、合格への道に立ちふさがるのは心の声だけではない。模試の結果、科目選択など、様々な困難があるだろう。ここからは、こういった問題に対処するうえで少しでも役に立つのではないかと、思えることを挙げようと思う。

・志望校は早めに決める

僕が京都大学に行きたいと思ったのは、高一の終わりごろだった。しかしその頃はただぼんやりとした憧れがあっただけに過ぎず、成績も京都大学に受かるレベルにはほど遠かった。しかし、オープンキャンパスに行ったり、京都大学について触れた作品を読んだりすることで、大学に対しての思いが強まり、勉強する励みになった。また、京都大学の問題はかなり特徴的なもので、早めに対策をとれたことが合格に直結したと思う。今から志望校を決める人には、憧れやイメージを持っているだけでもいいので、まずは目標を高く持ってほしい。

・受験は質より量である

センターの過去問をやると実感できるが、どの教科にも「よく出る問題」というものが存在する。点数にもっとも影響するのはこの「よく出る問題」を知っているかどうかであり、そのためには問題を数解くのが不可欠である。僕はセンターの日本史を、追試も合わせると三十回分以上やったが、これによって大きく力がついたと思う。

・世界史・日本史選択を恐れない

世界史と日本史を両方勉強することは、とても大変なことのよう思えるだろう。しかし、三年生になって倫理・政経が入ってくると、世界史・日本史選択と歴史・倫政選択との間に勉強量の差はなくなる。それどころか、両方の歴史をやっているからこそ理解できることもあり、結果として点数はとりやすかった感がある。

・先生を活用する

英作文、国語の記述といった論述系の問題は、自分ひとりではどうにもならない。こういった問題は先生に見てもらうのが一番である。その他にも、行き詰ったときやどうしても理解できない点があるときなど、先生に相談する機会が多い。何をすればいいかわからない時にも、先生に相談するとアドバイスや問題をくれる。

これから先、目の前の壁にくじけそうになる事は何度もあるだろう。しかし、とにかくがむしゃらに向き合えば、必ず乗り越えることができる。

逃げるのはいつも、自分だけなのだから。